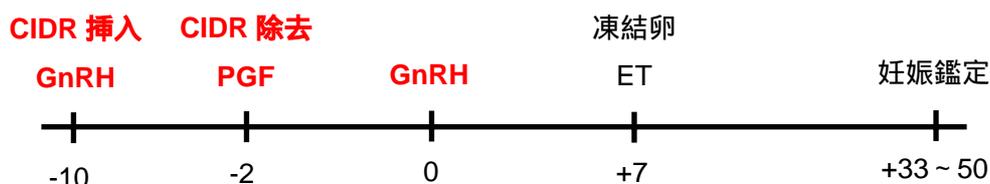


「全農 ET センターニュース」平成 14 年 3 月号

今月も引き続き 2002 年 1 月にブラジル イグアス市で開催された国際受精卵移植学会 (International Embryo Transfer Society: IETS) で発表された研究について報告させていただきます。今回はアメリカのグループのウシ ET における受胎率向上に関する研究です。

肉用牛における ET 後の受胎率向上に関する研究 (アメリカ, イリノイ大学)
Improvement of pregnancy and rescue of embryos in beef cows. (University of Illinois, USA)

イリノイ大学の研究グループは、オブシンク(Ovsynch)とCIDRを併用して受卵牛の発情同期化を行い、凍結受精卵を移植後の受胎率を対照区 (CIDR を併用せず, Ovsynch のみの区) と比較しました。まず、実験のプロトコールを下の図に示します。



発情日を 0 日目として -10 ~ -2 日目で CIDR を挿入し、除去時にプロスタグランジンを投与し発情誘起を行います。そして、発情日から +7 日目に凍結受精卵を移植しています。

結果は表に示しました。3 件のビーフセンターの 5 牛群を用いて実験を行った結果、CIDR を併用しなかった対照区の平均受胎率は 48.7%、CIDR 併用区では 59.1%であり、+16.5%の受胎率向上がみられました。

近年、移植当日あるいはその 2 日前に hCG 製剤等でプロジェステロン濃度 (P 値) を人為的に上昇させると、受胎率向上につながる事が多数報告されていますが、この報告では、CIDR+GnRH を用いた同期化で移植の受胎率向上 (すなわちより性周期の同期化を確実にする) が認められています。

農家	移植頭数	対照区*	CIDR 併用区	受胎率変化
A 群	48	50.0	41.7	-8.3%
B 群	24	50.0	58.3	+8.3%
C 群	46	50.0	66.7	+16.7%
D 群	63	60.0	78.8	+18.8%
E 群	40	33.3	47.4	+14.1%
平均		48.7	59.1	+16.5%

*CIDR を併用しなかった区。